

“ナナメ”の関係からみる園での小学生ボランティア

ー集団共同型子育て再生プロジェクト (2) 小学生インタビューからー

廣戸 健悟¹・野澤 祥子²・山口 舞¹・石山 幸恵³・柳瀬 瑞穂³

(¹東京大学大学院教育学研究科・²東京大学大学院教育学研究科 発達保育実践政策学センター・³フレーベル館)

hiroken247@p.u-tokyo.ac.jp



プロジェクトHP

背景

ナナメの関係の希薄化

- ・ ヒトは本来、血縁・非血縁を問わず多様な人々と協同的に養育する“**集団共同型子育て**”を行ってきた
- ・ しかし、現代では核家族化の進行によりその機会が減少
- ・ 特に異年齢間の“**ナナメの関係**”が希薄化(例：年長児と年少児の交流)

！ 集団共同型子育てとは？

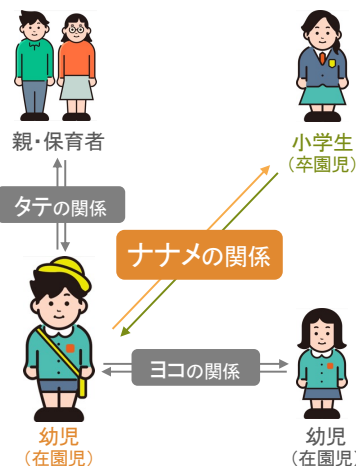
「血縁者だけでなく、保育者や地域の大人など非血縁者といった多様な人々によって張り巡らされたセーフティネットの中で、か弱く手のかかる子どもの発達を支える養育形態」(Hrды, 2009)

集団共同型子育ての再生

- ・ 園や学校という集団状況は、ナナメの関係を豊かに享受できる唯一の場
- ・ ナナメの関係を体験できる場を**意図的に設ける**必要

目的

小学生が保育の場に参画し、在園児と交流することで、小学生および幼児にどのような影響が生じるのかを検討



方法

参加者

- ・ 小学生31名(1年生13名、2年生4名、3年生9名、4年生5名) ※東京都内の認可保育所「フレーベル西が丘みらい園」の卒園児
- ・ 2024年7月末～8月末の夏休みに実施

データ収集

- ・ 小学生がボランティア活動後に記入した「**ふりかえりシート**」+活動の様子記録した「映像・画像」
 - ・ 質問項目：「きょうのかんそう」「いちばんたのしかったことはなんですか」「いちばんたいへんだったことはなんですか」「ほかにかんじたことはありますか」

分析方法

- ・ **モザイク・アプローチ** (Clark, 2005)
 - ・ 子どもを「完全なコミュニケーター」とみなし、異なる視点(子ども、大人、保育者)やモード(視覚、発話など)を組み合わせる手法
 - ・ 「ふりかえりシート」をチャイルド・インタビューとして扱う

結果と考察



小学生への影響

- ・ 「**保育者**」という役割の経験(おもちゃの片付け・遊びのサポート・午睡の寝かしつけ)
 - ・ 3・4年生は、幼児に対して**養護的な行動**を示す(「危ない」と言って危険を未然に防ぐ)
- ・ 「**戻れる場**」としての保育園(「また来たい」「冬休みにも来る」)
- ・ 将来の職業選択への影響(「保育士になりたい」)



幼児への影響

- ・ 小学生の遊びを模倣する(“**遊び技術**”の伝達)
- ・ 小学校生活への**心理的準備**(小学生への具体的なイメージ)

総合考察

ナナメの関係が子どもに与える**双方向的な**影響

- ・ 小学生が保育の場に参画し、**保育者としての役割**を担うことで養護やケアといった社会化のプロセスを経験
- ・ 在園児にとっても、小学生との交流を通じ、小学校を分断された次のステージではなく、**見通しをもてるもの**と捉えられるようになり、幼小接続の緩やかな橋渡しとなる

意義

- ・ 本研究は、意図的に「ナナメの関係」を創出することで、異年齢交流を促進
- ・ 今後、他園でも実施可能なロールモデルとなる可能性